

名古屋市への政策提言（概要）

2018年10月18日

公益社団法人 名古屋青年会議所

◇政策提言に至る経緯

名古屋青年会議所は本年度、幅広い市民の声を集約し、その声を政治や行政に届けるプラットフォームとして「ナゴヤ未来会議」を立ち上げました。名古屋青年会議所会員や有識者らが実際に集まって議論する「リアル会議」と、ホームページを通じて市民が自由に議論する「ウェブ会議」という2つの場を用い、幅広い市民の声を集約してきました。

さらに、7月29日には名古屋コンベンションホールにて「ナゴヤ未来会議～みんなで創ろうナゴヤの未来～」と題した公開フォーラムを開催し、キャスターの幸坊治郎氏や名古屋を代表する2大アイドル「SKE48」と「BOYS AND MEN」のメンバー、政治家や大学教授、主婦ら約30名の市民代表が、名古屋で実現すべき政策アイデアについて討論しました。

この度、政治・行政と市民をつなぐプラットフォームのご活用を提言するとともに、公開フォーラムにおいて約1000名の来場者が「名古屋で実現すべき」として選んだ3つの政策案を提言させていただきます。（項目1～4）

また、名古屋青年会議所が2018年度に取り組んでおります各種事業の結果を踏まえた政策案につきましても、本年末にお届けする予定ですが、まずは概要のみお伝えさせていただきます。（項目5～10）

いずれも名古屋のまちをより良くするためのアイデアですので、ぜひ、2019年度以降の名古屋市政に反映していただきますよう、お願い申し上げます。

◇政策提言

1 まちづくり参画プラットフォームの活用～

市民の声を政治や行政に反映させる試みとして、従来、有識者会議やパブリックコメントなどの方法が採られてきましたが、一般市民の認知度が低く、敷居が高いことなどから、幅広い市民の声を収集することには、依然、課題があります。ナゴヤ未来会議「ウェブ会議」では、名古屋工業大学開発の合意形成システム「COLLAGREE」を活用し、誰でも気軽に参加できるプラットフォームを構築し、民間ながら約4ヶ月間で500名を超す登録者の意見を収集することが出来ました。

そこで、政治・行政と市民の橋渡しの機能として、新しいプラットフォームの積極的な活用を提言します。

2 地域がつながる働き方～地域子育て支援拠点でテレワーク～

先進各国に比べ、日本の男性の育休取得率は、極めて低い水準になっています。父親による育児の参加は、家族にとって望ましいものであるにも関わらず、父親の育児休暇によって、家計が苦しくなるため、父親は、育児休暇を取得し難い状況に置かれています。

そこで、現在、名古屋市の中学校区に一つずつある「地域子育て支援拠点」にテレワークサテライトオフィスを設けることを提言します。

3 道徳でLGBT教育を

LGBTの方は、13人に1人の割合で存在し、AB型や左利きの方の割合とほぼ同じです。そのような身近な存在

にも関わらず、LGBTの方は「いじめや差別がある」、「職場や学校の理解がない」など、名古屋のまちに生きづらさを感じています。そして、教育現場において、LGBTに対する十分な対応が取られて来なかったことが一因となって、現在におけるLGBTへの誤解や偏見へと繋がっています。また、名古屋市には約18万人のLGBTの方がいる一方で、68%もの方が誰にも相談できないというアンケート結果もあります。

そこで、小中学校で教科化された「道徳」にLGBT教育を盛り込むことと、名古屋市にLGBT専用の相談窓口を開設することを提言します。

4 スポーツスタジアム建設

名古屋には「でらスポ名古屋」に参加する13のトップスポーツチームがあるなど、スポーツで名古屋を元気にする潜在的な力を持っています。そして、現在、開発が進められている久屋大通公園には、東西の幅が78メートルもあり、フットサルやバスケットボールなど様々なスポーツを行える広さを有しています。

そこで、錦通りから南側の久屋大通公園に、スポーツスタジアムを建設することを提言します。

5 子供たちの可能性を拓げていくのに必要な地域で支える教育体制

子供たちが自立した大人として成長していくためには、学力テスト等で計測可能な認知能力だけでなく、物事に対する意欲や学習習慣、社会性や論理的思考力といった非認知能力を早い段階で身につけていく必要があります。そうした非認知能力の形成を学校教育だけで成し遂げるのは困難であり、家庭において子供たちをサポートしていかなければなりません。一方で、社会の変化によって、共働き世帯の増加や核家族化が進行している現状では、家庭だけで十分な教育を行うことが難しくなっています。そのため、家庭環境の違いから子供たちが得られる経験に差が生じ、結果として子供たちの能力の差につながってしまっています。

そこで、子供たちが自ら学習していく意欲を醸成し、学習習慣や論理的思考力と言った非認知能力を高めるために必要な公教育を補完する支援体制を築き、まちに住まう大人たちが支援体制に関わる機会を創出することを提言します。特に、名古屋市特有の優れた仕組みであるトワイライトに、名古屋市がさらなる協力や支援を行っていくことで、地域に親を含めた大人たちが支え合う教育の拠点とし、子供たちが家庭環境に左右されることなく、これからの社会を生き抜いていくために必要な教育が受けられるようにしていくべきであると提言いたします。

6 教師と生徒が双方向で進める社会保障・年金・税金学習の授業導入へ

少子高齢化が進行する中、市民一人ひとりが当事者意識を持って、社会保障・年金・税(以下まとめて「社会制度」といいます)のあり方を考えていく必要があります。社会制度に関する教育は、主に義務教育における公民、高校教育における「現代社会」「政治・経済」において実施されていますが、その内容が難しく、また、授業時間が限られるために「教師から教える」という授業態様にならざるを得ず、十分に社会制度について理解することが難しい状況となっています。

そこで、社会制度を少しでも分かりやすくするために漫画・参考資料集といった教材を利用すると共に、ワークシートを用いて生徒と教師双方向で実施するソクラテスマソッド方式の授業の導入を提言します。

7 中学生の課題授業の重要性

名古屋はものづくりが盛んな地域であり、ノーベル賞受賞者を多く輩出し、国内でも有数の教育機関が存在する都市です。そして、ものづくりの根幹には日常生活において役に立ち実用性のある理数が深く関わっています。今

後、まちの暮らしをさらに豊かなものへと発展させ近未来の都市像を描いていくためには、理数教育を今以上に積極的に行っていく必要があります。そのためには、文系理系への進路選択が間もなく行われる中学生の時期に名古屋市内の高校・大学・企業に訪問することで、理数教育が将来どのように活用され、どのように我々の生活と結びついているのか認識を深める必要があります。

そこで、理数に特化した授業や理数を体験できる場を教育の一環に盛り込むことを提言します。

8 Instagram を活用した訪名観光客の誘致

本年度、名古屋青年会議所では Instagram のハッシュタグ「#visitnagoya」を使用し、市民が名古屋の魅力を写した写真を1500枚以上を投稿いただきました。言葉で説明せずとも、写真で観光地の魅力をアピールすることができ、さまざまなインフォメーションを発信することができました。

そこで、さらなる蓄積と名古屋の魅力の対外的な発信を継続すべく、名古屋市ならびに名古屋コンベンションビューローにて引き続き行っていただくことを提案します。

9 モニュメント

今回寄付をさせていただきました「@NAGOYA」モニュメントが新たな名古屋のシンボルとして親しまれ、その魅力が発信・伝播されることにより、市内外からの交流人口増加の一助になると考えております。

そこで、このモニュメント自体の対外的な幅広い発信並びにこの「@NAGOYA」がまちのトレードマークとして次から次へと広がっていくよう、「@NAGOYA」の周知活動をしていただくことを提案します。

10 ナゴロゲ

今回特別共催させていただきました「ナゴロゲー2018ー ロゲイニングinなごや」では、台風24号の接近に伴う荒天のため2日目の開催ができませんでした。しかしながら1日目に参加していただいた市民からは、「こんな魅力があったとは知らなかった。」「名古屋の魅力を再認識した。」と、大変嬉しい声ももらっており、観光都市名古屋を確立する一助になったと考えております。

そこで、この素晴らしい事業を次年度以降も名古屋市並びに名古屋観光コンベンションビューローにて引き続き実施していただくことを提言します。

以上